

9. *C. caryotideum* (WALL.) PR. (99) ヤブソテツ

支那、西藏、印度、東京、臺灣、日本、比律賓、布哇

f. *attenuata* (MOORE) CHING, comb. nov. (101) 支那f. *hastosum* (CHRIST) CHING, comb. nov. (101) 支那10. *C. urophyllum* CHING, sp. nov. (101) 支那11. *C. Fortunei* J. Sm. (102) ヤブソテツ 支那、日本、朝鮮、東京f. *polypterum* (DIELS) CHING (104) 支那、東京f. *latipinna* CHING (104) ヤマヤブソテツ 支那、日本f. *intermedia* (TAGAWA) CHING, comb. nov. (105) ミヤコヤブソテツ 日本12. *C. micropterum* (KZE.) CHING 印度、亞弗利加

誤植の非常に多いのは遺憾である。ヒロハヤブソテツの學名は *C. macrophyllum* (MAKINO) TAGAWAの方がよいと思ふ。日本の種類は全部支那と共通であるので、支那の種類が明になるまでは十分な研究が不可能であつた。抄録者とは多少意見の異なるところもあるから、日本の種類は今一度研究しなほしてみやう。(田川基二)

吳印禪氏：**ムベ屬植物**：G. C. Wu, Über die Gattung *Stauntonia* DC., in Notizbl. Bot. Gart. Mus. Berl.-Dahl., Bd. XIII (Dec. 1936) pp. 364-376.

氏はまづ本屬を花瓣のある亞屬 *Parvatia* (DECNE.) WU とない亞屬 *Eustauntonia* WU とに區別し次に檢索表及び各種の Synonymy, 簡単な記相文及分布を述べて居る。氏は本屬に十七種を認めて居るがその内本邦にも分布して居る植物は次の通りである。

S. hexaphylla (THUNB.) DECNE. ムベ., f. *typica* WU (日本. 廣東省), f. *rotundata* WU (日本. 臺灣), f. *ovata* WU (日本), f. *obovata* WU (= *S. obovatifoliola* HAYATA) (日本. 臺灣), f. *urophylla* (HANDEL-MAZZ.) WU (廣東省), f. *intermedia* WU (廣東省) の諸品種に分類される。

S. keitaoensis HAYATA (臺灣) ケイタオトキハアケビ。

S. hebandra HAYATA (臺灣). マルバトキハアケビ. var. *angustata* WU (臺灣)

S. formosana HAYATA (臺灣) タイワンアケビ。(大井次三郎)

シヤパレンコ氏：—公孫樹の最も近き祖先 (K. K. SHAPARENKO, The Nearest Ancestors of *Ginkgo biloba* L. in *Flora et Systematica* II (1936) pp. 5-32), —露文—英文の Résumé あり。

この研究は公孫樹の古生物學的研究であつて Adzharistan の生きた公孫樹の葉の形態的觀察と古生物學的記録とに依つて過去の公孫樹を論じたものである。多數の地圖と葉の寫眞が挿入されてゐる。

著者の述ぶるところは、*Ginkgo adiantoides* と *Ginkgo biloba* とは別種として取り扱